

Characters of Local Governments as Predictors for Improving the HPV Vaccination Rate in Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 伸子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032521

主論文の要約

Characters of Local Governments as Predictors for Improving the HPV Vaccination Rate in Japan

(本邦におけるヒトパピローマウイルスワクチンの接種率向上因子としての地域自治体特性の検討)

東京女子医科大学産婦人科学教室
(指導：田畑 務教授)
高橋 伸子

Tokyo Women's Medical University Journal, [Advance Publication]

Released: April 26, 2019 (DOI) <https://doi.org/10.24488/twmuj.2018012>

上記に掲載

【目的】

ワクチン接種等の保健医療サービス利用に影響する要因には、個人要因だけでなく環境要因の一つである地域自治体特性も重要であると言われている。公費負担による HPV ワクチン接種率に関連する因子として、被接種者らの意識調査や接種勧奨施策に関する報告は多数存在するが、自治体特性との関連については明らかではない。本研究では HPV ワクチン接種率に関連する自治体特性を明らかにする目的で、公費助成による HPV ワクチン接種を実施した全国自治体を対象にアンケート調査を行い、各自治体特性と接種率に関連する因子について探索した。

【対象および方法】

2011～2013年度の公費助成による HPV ワクチン接種状況に関するアンケート調査を、全国から無作為抽出した 500 自治体に対して郵送、電話等により実施した。233 自治体から回答を得、2012年度の中学1年生の1回目 HPV ワクチン接種率を算出し、中央値で2群に分割したものを目的変数とした。説明変数は、全国市区町村別に公表されている統計データから収集した自治体特性(29項目)を用い、データ欠損のない150自治体を解析対象とし、単変量および多変

量回帰分析を行い、赤池情報量基準(AIC)を算出して有効な説明変数について検討した。p値は <0.05 を統計学的に有意とした。

【結 果】

単変量解析では、29の説明変数のうち「幼稚園数」(AIC:-22.35)、「人口」(AIC:-11.32)の順に良いモデルと考えられ、二次元クロス表からHPVワクチン接種率と負の相関があると推測された。一方「国庫支出金」(AIC:-6.71)、「老年人口割合」(AIC:-5.78)、「市町村民税」(AIC: -4.2)の項目では、接種率と正の相関が示唆された。多変量解析では「幼稚園数、世帯数」(AIC:-30.29)の組み合わせが地域自治体におけるHPVワクチン接種率を説明する最適なモデルであり、統計学的に有意と考えられた ($p=0.0388$)。

【考 察】

自治体特性は自治体サービスと異なり容易に変容できる因子ではないが、本邦のように定期的接種の積極的勧奨が再開されない現状では、地域による独自のHPVワクチン接種に関する施策が重要となる。

本研究結果から住民が多いほど個々に対する行政の目配りや配慮が不足しがちとなり、反対に人口が少ないほど行政の意思を個々の住民に伝え易く、住民からの要求を行政が受けやすくなる事が示唆された。単に予算規模の大きい都市であることが、接種率を向上させる因子となるとは言い難いと考えられた。

【結 論】

HPVワクチン接種率向上の予測因子として、幼稚園数が少ないことと国庫支出金や高齢者割合が高いことが関連し、低接種率のリスク因子として人口や世帯数が多いことなどとの関連が示唆された。接種対象の保護者や地域レベルでの情報提供や啓蒙活動が接種率向上に寄与すると考えられた。